



## 警告のニューズレター「角笛」

発行日：2017年1月発行（第81号）

発行：警告の角笛出版

価格：フリーペーパー

角笛 HP: <http://www.geocities.co.jp/Technopolis-Mars/5614/>

### 【目次】

- ◎巻頭メッセージ：「バビロンから出てくる」 エレミヤ
- ◎時代を悟る「子供達に忍び寄る魔術的な畏」 H.F
- ◎お知らせコーナー 「本の紹介」

### [巻頭メッセージ]

#### 「バビロンから出てくる」 by エレミヤ

本日は、「バビロンから出てくる」という  
題でメッセージしたいと思います。

終末の日に正しく歩もうとする神の民にとり、  
大事なことはバビロンから出てくる、脱出すること  
であると聖書が警告していることを見ていきたい  
と思います。

テキストは以下の箇所です。

黙示録 18:4 それから、私は、天からのもう  
一つの声がこう言うのを聞いた。「わが民よ。  
この女から離れなさい。（この女から出てきなさい：  
KJV訳）その罪にあずからないため、また、その  
災害を受けないためです。

この箇所は新改訳では、「この女から離れなさい」と  
少し異なった訳になっています。しかし、KJV訳では、  
「この女から出てきなさい」と語っています。KJV訳は  
大多数の聖書写本(majority text)を反映させた正統的な訳  
ですのでこちらの訳を採用したいと思います。

<バビロンから出ることの意味合い>

繰り返しますが、ここでは、わが民として神に属する民に対して、「この女から出てくる」すなわち、バビロンから出てくるのが命じられているのです。このことの意味合いを考えてみたいのです。私にはこう読めます。

このことばを通して神は終末の日に全ての神の民がすでにバビロンに入っている、その中  
に居ることを語ると理解できるのです。聖書的な表現をするなら、終末の日の神の民はすでにバビロン捕囚されていることを聖書は暗示している、そう理解できるのです。

このような言い方は唐突に聞こえるかもしれませんが、私の言わんとしていることを理解いただけるでしょうか。例をあげて説明したいと思います。たとえば、警官が犯人に対して「部屋から出てきなさい」と命じるとき、それは、すなわち、犯人が部屋の中にいることを意味するのです。外の庭を歩いている犯人に対して「部屋から出てきなさい」とはいわないからです。

## 「バビロンから出てくる」 エレミヤ

また、目覚まし時計が鳴ってもベッドから出てこない子供に対して母親は、「早くベッドから出てきなさい」と語ります。もうすでにベッドから出てきて顔を洗っている子供に対してはそうはいわないのです。ですので、何度も繰り返すようで恐縮ですが、「この女から出てきなさい」という短いことばを通して聖書が暗示していることがら、を正しく正しく理解しなければなりません。

その結論は確かに私たちの常識と異なるかもしれませんが、しかしどのようなときでも聖書が正しいのです。神はこのことばを通して終末の日にわが民と呼ばれる神の民もそうでない神の民も皆、誰もかれもすでにバビロン捕囚されていることを暗示し、語り、知らせているのです。このことを理解しなければなりません。

聖書は神の知恵により書かれた書です。したがってどのように小さなことばにも意味合いがあるのです。そして私たちは黙示録の小さなことば「わが民よこの女から出てきなさい」という小さなことばから重大な事実を悟るのです。それは、終末の日にバビロン捕囚が再現され、すべての神の民がバビロンへ捕らえ移されてしまう、否すでに捕らえ移されている、という重大なことを悟るのです。

### <バビロン捕囚とは何か>

そのようなわけで黙示録は明らかに終末の日にバビロン捕囚が再現することを暗示します。ですので、私たちがもし終末の日を正しく理解しようと望むならこのバビロン捕囚ということを理解するべきです。それでは改めて、バビロン捕囚の意味合いは何でしょうか？考えて見ましょう。

このことを理解するためには私たちは旧約聖書の記述に戻る必要があります。以下の箇所を見てみましょう。

2 歴代36:10 年が改まるに及んで、ネブカデ

ネザル王は使者を遣わし、彼を主の宮にあった尊い器とともにバビロンに連れて行った。そして、エホヤキンの兄弟ゼデキヤをユダとエルサレムの王とした。

36:14 そのうえ、祭司長全員と民も、異邦の民の、忌みきらうべきすべてののならわしをまねて、不信に不信を重ね、主がエルサレムで聖別された主の宮を汚した。

36:15 彼らの父祖の神、主は、彼らのもとに、使者たちを遣わし、早くからしきりに使いを遣わされた。それは、ご自分の民と、ご自分の御住まいをあわれまれたからである。

36:16 ところが、彼らは神の使者たちを笑いものにし、そのみことばを侮り、その預言者たちをばかにしたので、ついに、主の激しい憤りが、その民に対して積み重ねられ、もはや、いやされることがないまでになった。

36:17 そこで、主は、彼らのもとにカルデア人の王を攻め上らせた。彼は、剣で、彼らのうちの若い男たちを、その聖所の家の中で殺した。若い男も若い女も、年寄りも老衰の者も容赦しなかった。主は、すべての者を彼の手に渡された。

36:18 彼は、神の宮のすべての大小の器具、主の宮の財宝と、王とそのつかさたちの財宝、これらすべてをバビロンへ持ち去った。

ここには、ダビデ以来の王朝の子孫である王も民もみな、バビロンへ捕囚されたことが描かれています。そして、このようにして神の民が異邦の地であるバビロンへ捕囚されたのです。しかし、何故捕囚されたのか？捕囚のその理由として、「神の使者たちを笑いものにし、そのみことばを侮り、その預言者たちをばかにしたので、ついに、主の激しい憤りが、その民に対して積み重ねられ」たゆえであることが書かれています。

## 「バビロンから出てくる」 エレミヤ

そうです、旧約の神の民は神への反逆、不信のゆえに神の怒りをかい、結果、バビロンへ捕囚とされてしまったのです。それが、バビロン捕囚の理由なのです。

### <新約の神の民もバビロン捕囚される>

既に見たように、黙示録は新約の神の民も再度バビロン捕囚されることを暗示しています。それでは、その理由は何故でしょうか？何故、新約の神の民は、バビロン捕囚されるのでしょうか？私が思うには、その理由は旧約のバビロン捕囚の理由と同じです。すなわち、新約の神の民も、「神の使者たちを笑いものにし、そのみことばを侮り、その預言者たちをばかにしたので、ついに、主の激しい憤りが、その民に対して積み重ねられ」たゆえバビロン捕囚されるのです。

このことは本当でしょうか？少し考えて見ましょう。私の理解ではこのことは本当であり、新約の神の民は、神のみことばを侮り、その教えを守ろうとしていません。そして、それゆえに神の怒りが積みあがっている、そのように思っています。

そんなはずはない、という人もいるかもしれませんが、例を挙げてみましょう。たとえば、アメリカのキリスト教会では、神のことばを侮り、同性愛を受入れつつあります。しかし、この罪は聖書の中で、ソドム、ゴモラの罰とともに神が禁じている罪です。さらに聖書の十戒のことを考えて見ましょう。十戒には、何が命じられ何が禁じられているのでしょうか？そこには殺すな、姦淫するな、むさぼるなど書かれてないのでしょうか？しかし、アメリカのキリスト教会は戦争の殺人を肯定し、アメリカのクリスチャンは離婚や姦淫を犯し、さらに大いに欲やむさぼりを追い求めています。この教会は「その御言葉を侮」っていないのでしょうか？いいえ侮っています。そして、それゆえ、この国においてバビロン捕囚は実現しているのです。

### <現代のバビロンとは何か？>

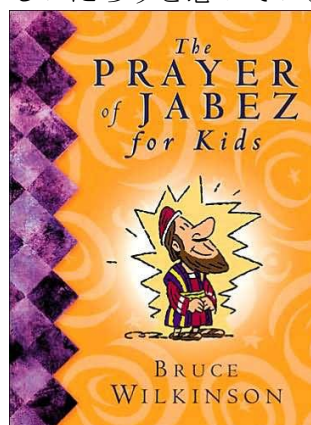
さて、ここで根本的なことを考えて見ましょう。すなわち、現代のバビロンとは一体何をさすのか、ということを考えてみたい、と思うのです。

このことに関して私の理解では、それはアメリカのキリスト教会である、と理解しています。そう思う根拠は以下のことばです。聖書は女、バビロンが獣と不可分な関係であることを語り、女が獣に乗っていることを語ります。以下の通りです。

黙示録17:3すると私は、ひとりの女が緋色の獣に乗っているのを見た。その獣は神をけがす名で満ちており、七つの頭と十本の角を持っていた。

以前私たちはこの獣が国としてのアメリカであることを見ました。獣がアメリカの国なら、それに乗っている女も獣と無関係ではなく、関係があります。したがって、女はアメリカのキリスト教会と理解するのが正しいと思えます。

繰り返しますが、私たちはアメリカのキリスト教会、それは、聖書に従った忠実な教会でも、神に喜ばれる教会でもなく、逆にそれは、神の前にバビロンという名前で呼ばれている、と理解しているのです。そしてその理解は正しいだろうと思っています。



ヤベツの祈りは魔術的な祈り

## 「バビロンから出てくる」 エレミヤ

何故なら、アメリカのキリスト教会で語られている教えは聖書由来のものでなく、曲げられた教理だからです。そして、そのリバイバルの霊は神からの聖霊ではなく、逆に悪霊だからです。

たとえば、艱難前携挙説は聖書が本来語っている教えではないのですが、アメリカで大いに宣伝されています。また、アメリカを基点に広がったヤベツの祈りは魔術来のものであり、神に願いを強制する魔術的なものなのです。

### <バビロンは全ての国のクリスチャンを汚れに導く>

バビロンの問題は単にアメリカのキリスト教会のみがバビロン化しているという問題だけではありません。そうではなく、そのアメリカのキリスト教会の影響の中で世界中のキリスト教会がバビロン化される、という問題があるのです。それは私が言っていること、警告していることではなく、黙示録が警告していることです。黙示録はこのバビロンにより、すべての国々が汚されることを語ります。以下の通りです。

**黙示録18:3 それは、すべての国々の民が、彼女の不品行に対する激しい御怒りのぶどう酒を飲み、地上の王たちは、彼女と不品行を行ない、地上の商人たちは、彼女の極度の好色によって富を得たからである。」**

バビロン、アメリカのキリスト教会によりすべての国々の民が影響を受け、神の怒りを受けるようになる：このことは事実であり、現在全ての国のキリスト教会はアメリカ由来の偽り教理また悪霊リバイバルに汚されています。

良くも悪くもアメリカのキリスト教会は世

界のキリスト教会をリードしており、その影響は全世界に及んでいるからなのです。

### <バビロンに捕囚されることの意味合い>

それではバビロンに捕囚されることの意味合いは何でしょうか？それにはどのような問題があるのでしょうか？バビロン捕囚、そのことに関するたとえの意味合いは深刻なものであると私には思えます。深刻？このことを考えて見ましょう。

旧約の神の民がバビロンに捕囚される、捕らえ移される、というとき、それは彼らがアブラハム以来の先祖の約束の地から抜き取られ、追い出される、という意味合いがあります。

そしてその約束の地から抜き取られることのたとえの意味合いは深刻です。神の約束の地が新約において意味すること、そのたとえの意味合いはクリスチャンに対して神が約束した御国、帰るべき天の故郷を意味するものだからです。

そして、バビロンに捕囚された人々に対してはその天の御国を受け継ぐとの約束は破棄され、彼らは入るべき天の御国に入らない、そのことが暗示されているのです。大変深刻な意味合いがあるのです。そしてもう一つのことがあります。バビロン、それは異郷の地である、ということです。それは、神の備えた地でもなく、場所でもありません。同じく現代のバビロンであるアメリカのキリスト教会で語られている教えや霊は本来神が備えたものでなく、それは異郷のものであり、異教の教えなのです。トロント、ペンサコーラの霊は神からの霊でなく、悪霊由来のものなのです。（角笛HPのトロントCDのページを参照ください）

## 「バビロンから出てくる」 エレミヤ

＜バビロンの罪の共犯者とならない＞

終末の日において全ての国のクリスチャンがアメリカの影響の下でバビロン化し、バビロン捕囚されることは事実です。しかし、それとともに聖書は私たちがそこから出ることを命じています。もし、そうせず私たちがこの女、バビロンから出てこないなら、バビロンの罪の共犯者となることを聖書は語ります。以下の通りです。

**黙示録18:4** それから、私は、天からのもう一つの声がこう言うのを聞いた。「わが民よ。この女から離れなさい。その罪にあずからないため（共犯者とならないため：KJV）、また、その災害を受けないためです。

ですので、我々は理解しなければなりません。もし、我々がこのまま、アメリカ由来の偽り教理にとどまり、その悪霊リバイバルを受入れているなら、それだけで、私たちは罪に加担するもの、罪への共犯者となることを知るべきなのです。そして、その罪への罰として私たちはバビロンと同じ罰を受けるようになる、それを理解するべきなのです。

今は全世界のキリスト教会がバビロン捕囚されている時代であり、全世界の教会がアメリカ由来の偽り教理に影響されており、悪霊リバイバルに影響されています。

そのことは事実なのですが、私たちはしかし、自分で教理を吟味し、霊を吟味し、どのように歩むべきか決断するべきです。今のまま、バビロン、アメリカのキリスト教会の教理や霊にとどまることは聖書的には、罪への加担者、共犯者と神にみなされ、いずれその罰を受けるようになるからなのです。

＜バビロンから出てくるのが薦められている＞

エレミヤ書は、このこと、バビロンから出ること、を以下の様に語ります。

**エレミヤ 51:6** バビロンの中から逃げ、それぞれ自分のいのちを救え。バビロンの咎のために絶ち滅ぼされるな。これこそ、主の復讐の時、報いを主が返される。

ここに書かれているように、バビロン、アメリカキリスト教会の影響や教理、霊から抜け出すことが正しいことであり、聖書が薦めていることなのです。そして、そのことは実は私たちの命、永遠の命にかかわることなのです。それで、「バビロンの中から逃げ、それぞれ自分のいのちを救え。」と書かれているのです。逆にどこまでもアメリカキリスト教会由来の偽り教理にとどまり、悪霊リバイバルにとどまるものは、ともに害を受け、滅びを受けます。「バビロンの咎のために絶ち滅ぼされるな。」と書かれている通りなのです。

これらのバビロンに関する聖書の警告を正しく理解し、終末における正しい歩みをしましょう。—以上—



聖書で禁じられている刺青を行うアメリカのクリスチャン

## 時代を悟る「子供達に忍び寄る魔術的な罠」H.F

マルコ10：13～16

13 さてイエスにさわっていただくとして、人々が子どもたちを、みもとに連れて来た。ところが、弟子たちは、彼らをしかった。

14 イエスはそれをご覧になり、憤って、彼らにいわれた。「子どもたちを、わたしのところに来させなさい。止めてはいけません。神の国は、このような者たちのものです。

15 まことに、あなたがたに告げます。子供のように神の国を受け入れる者でなければ、決してそこに、入ることはできません。」

16 そしてイエスは、子どもたちを抱き、彼らの上に手を置いて祝福された。

主イエスは、幼い子供たちを抱いて手を置き祝福の祈りをされました。子供たちはイエスにとって、大切な存在です。そしてイエスは天の御国は子供のようなものでないと入れませんと言われました。それから2000年以上が経ちました。今は子供達にとってどのような時代なのでしょう。

今は、子供向けに、数かぎりないほど多くの玩具、ゲーム、TV番組、映画、アニメ、書籍がある時代となりました。子供たちは、日々これらから大きな影響を受けています。

今、世界的にも子供たちに人気があるものと言え、ポケモンやハリー・ポッターがあげられるでしょう。ハリー・ポッターは書籍でも、映画シリーズでも根強い人気があります。大阪のUSJにあるハリー・ポッターのアトラクションは、世界中から多くの人々が訪れています。ハリー・ポッターの流行で多くの人々が魔術に対して心を開きました。魔法、呪文、占い、オカルト、悪霊的な物が知らぬ間に人の心に入り込み霊的に影響しているの

です。聖書では占いや魔術は絶対にしてはならないものです。しかし、多くの人が魔術的な物に親しんでいます。そして子供たちに多くの悪霊的な影響を及ぼしているのです。ポケモンも、東洋的な異教の影響やニューエージという、悪霊的な影響が潜んでいます。また、近年はハロウィーンが広がり、多くの催しがあちこちでなされています。これも悪霊の祭りであり、子供たちに恐ろしい影響を与えています。魔術的な事は、子供たちがイエス様に対して健全な信仰を持つことを阻害します。世にはこういうものが氾濫しているのです。

世の中で流行しているものに、危険が潜んでいること。

これらの魔術的な物は危険であることは聖書的なクリスチャンの多くの方が理解され、危惧されているのではないのでしょうか。

では教会においてはどうでしょう。教会において、世の中の悪霊的な影響から子供たちが守られているならば安心であり、喜ばしいことです。教会の中なら大丈夫、守られているのでしょうか？

今、教会の子供のクラスなどにおいて用いられる書籍として、「ナルニア国物語」があります。

「ナルニア国物語」シリーズは教会で、子供たちに信仰的なことに親しんでもらうため、よく用いられ子供たちに多大な影響を与えています。これは学者でもあるC.Sルイスの人気の書籍シリーズです。

## 時代を悟る「子供達に忍び寄る魔術的な罠」H.F

ルイスは数多くの信仰書も執筆し、キリスト教世界では絶大な信頼を得ています。そしてナルニア物語のシリーズの中でも「ライオンと魔女」は非常に有名です。映画化され一般にも人気が高いものです。しかし、これらは霊的に危険であると警鐘をならしている人々がいます。

これは異教の古代神話と聖書的なものが融合されたものです。「ナルニア物語」は、魔法や魔術、呪文、魔女、奇怪な妖精や小人などが登場し、非常に魅力的に描かれています。信仰的と言いながら、読むうちに、子供たちは自然にオカルトの扉を開く危険が潜んでいるのです。「ナルニア」はクリスチャンが警戒している「ハリー・ポッター」と同様に魔術に対して心を開く効果があるのです。また、「ナルニア」は信仰的にも異端的な教えが複雑に入り込み、正しい福音の理解を阻害します。恐ろしいことに、「信仰的なもの」というコーティングがなされているだけにこの罠の深みにはなかなか気が付きません。知らぬ間に子供たちは魔術に心開き、悪霊の影響を受け、異端的な信仰に惑わされるのです。今の時代は霊的に見極める力が本当に必要です。

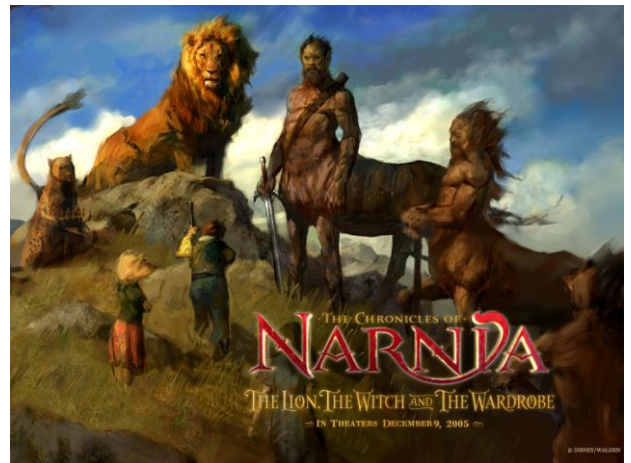
ルイスを深く調べていくと彼の中にオカルト的な背景を見ることができます。一例として、彼の親友の作家チャールズ・ウィリアムスは、オカルト儀式や魔術のグループを作っており、ルイスも多大な影響を受けています。彼は、聖書がすべて神の偽りのない言葉とは認めず、キリストを信じるのが救いに必要とは考えず、オカルトに関心を持っていました。

第二コリント 11 : 13 ~ 15 には「こういう者たちは、にせ使徒であり、人を欺く働き人であって、キリストの使徒に変装してい

るのです。しかし驚くには及びません。サタンでさえ光の御使いに変装するのです。ですからサタンの手下どもが義のしもべに変装したとしても、格別なことはありません。」とあります。こうしてみるとルイスはいったい何者であるのかと考えざるを得ません。

マルコ 10 章で、親たちが子供たちを祈ってもらう為にイエスのみもとに来たとき、弟子たちは叱り、止めました。弟子にイエスは憤られます。同じくマタイ 19 章で弟子に対し「邪魔をしないで私のところに来させなさい」と言われました。イエスは子供たちが霊的に健全に育つことを望んでおられます。弟子がイエスのみもとに行こうとした子供を邪魔したように、今の時代、子供の霊的な健全な成長を「邪魔」をするのは、主の弟子と言われる牧師や指導者ではないでしょうか？

キリスト教世界において、義のしもべに変装した指導者の存在があります。そして霊的に見分けができない教会のリーダー達がいいます。非常に残念なことですが今の時代、教会の中において危険が潜んでいるのです。各人が御霊によって良いものと悪いものを見分けていく時代です。—以上—



ナルニア国物語

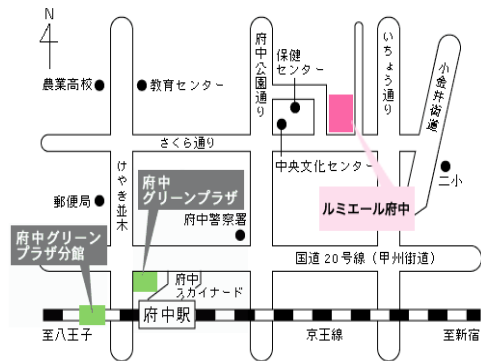
●エレミヤの新刊「天皇家は万世一系のダビデ王朝の末裔である！」



定価:¥1,500+消費税 ※注文を御希望の方は、以下へご連絡下さい。  
警告の角笛出版 tel:042-364-2327 fax:020-4623-5255  
mail:truth216@nifty.com

●レムナントキリスト教会「日曜礼拝」のご案内

曜日/時間:毎週日曜日 午前 10:30-12:30  
午後 14:00-16:00  
場所:東京都京王線府中駅前、府中グリーンプラザ本館  
(tel:042-360-3311)  
1Fのエレベーター脇の部屋表示板で、  
「レムナントキリスト教会」の部屋をご確認ください。  
どなたでも来会歓迎、入場無料です。



礼拝場所のURL: [http://www.fuchu-cpf.or.jp/green/access/map\\_02.html](http://www.fuchu-cpf.or.jp/green/access/map_02.html)

★教会のHPもあります。  
ご興味のある方は、“Yahoo! Japan”で、「府中 レムナントキリスト教会」で検索ください。  
尚、レムナントキリスト教会はプロテスタントの教会です。ものみの塔や統一教会とは関係ありません。

★クリスチャンの方におすすめのサイト:エレミヤの部屋

<http://www.geocities.co.jp/Technopolis/6810/>

★クリスチャン向けへのブログサイト:終末の風

<http://whattopics.at.webry.info/>

★クリスチャンになったばかりの方やノンクリスチャンの方におすすめのサイト:オリーブ&ミルトス

<http://remnantnotudoi.jimdo.com/>

★ノンクリスチャン向けへのブログサイト:パンの家

<http://87494333.at.webry.info/>